

世帯類型別にみた高齢者の生活時間の実態について

関根 美貴

家政教育講座

A Study on the Time Use of Elderly by Family Type of Household

Miki SEKINE

Department of Home Economics Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

1. はじめに

本稿では高齢者の生活時間配分の実態について考察する。厚生労働省の簡易生命表(2011)によるとわが国の平均寿命(0歳の平均余命)は男性が79.44年、女性が85.90年となっており、高齢期は非常に長い。さらにこの期には多くの人が仕事から部分的もしくは完全に引退しており、自由に配分できる時間が極めて多くなっている。高齢期において人は日々をどのように暮らしているのだろうか。高齢者の生活実態を時間配分の側面から把握することで、高齢者の生活における課題や支援の方法を見出すための第一次接近としたい。

近年の高齢者の生活時間の実態に関する先行研究としては、三富(2006)、小林(2010)、などがあげられる。特に性別や年齢階級以外の属性にも着目した研究としては熊澤(2003)の独居後期高齢女性を対象とした分析などがあげられるものの、筆者の知る限りその数はあまり多くない。現在わが国の65歳以上の高齢者人口は総務省「人口推計」(2011年10月1日現在)によると2975万人にも達しており、総人口の23.3%を占めるに至っている。その属性は多様でひとくくりにはできないものではない。それゆえ高齢者の属性に着目した分析は意義があるといえるだろう。

筆者はこれまでに先行研究で考慮されてきた性別、年齢階級に加え、就業状態に着目した分析を行ってきた。(関根(2011)(2012))さらに本稿ではもうひとつの重要な属性である世帯類型に着目して分析を行っていく。

本稿では高齢者が属している世帯類型として、単身世帯、夫婦のみの世帯、子夫婦やその子供と同居している世帯(以下同居世帯とする)の3つを取り上げた。資料として用いたのは総務省「社会生活基本調査」(2006)である。これらの世帯類型別・年齢階級別の推定人口及び用いた資料における標本数は表1-1、1-2にあるとおりである。近年増加している夫婦と未婚の子の世帯については紙面の制約上取り上げていない。この世帯類型については稿を改める予定である。本稿は

無業者を対象としたため、多くの雇用者が定年退職を迎える60歳以上を分析対象年齢とした。資料の制約上年齢階級は5歳刻みで、75歳以上は一括となっている。

本稿ではまず該当する種類の活動を、しなかった人を含む全員の平均である総平均時間を用いて実態を把握する。次いで該当する種類の活動を行った人のみについての平均である行動者平均時間や行動者率を用いてより詳細にみていく。これは総平均時間が変化したのは行動者全体の平均時間が変化したことによるものなのか、行動者率が変化したものなのかをみていくことで、平均の意味を再考するためである。

2. 総平均時間について

(1) 男性について

この節では1次活動、2次活動、3次活動及び2次活動、3次活動の主な項目の総平均時間について世帯類型別、性別、年齢階級別にみていく。なお1次活動とは睡眠、食事など生理的に必要な活動を指し、2次活動とは仕事、家事など社会生活を営む上で義務的な性格の強い活動を指す。3次活動は1次活動、2次活動以外で各人が自由に使える時間における活動のことである。

表1-1を用いて男性の1日の生活時間(週全体平均、以下同様)の総平均時間についてみていこう。まず1次活動に対する配分時間である。単身世帯においては60~64歳階級で680分であったものが、年齢階級の上昇に伴って増加し、70~74歳階級では705分となる。75歳以上階級ではやや増加の幅が大きくなり740分となっている。

夫婦のみの世帯についても単身世帯とほぼ同様の値と年齢階級変動となっている。

同居世帯については、60~64歳階級で715分と同一年齢階級における他の2つの世帯類型の値に比べて多い。この特徴は全ての年齢階級においてみられるものである。年齢階級の上昇に伴う変動は他の世帯類型と

表1-1 世帯類型別・年齢階級別にみた総平均時間（男性・無業者）

単位：分

	標本数	推定人口 (千人)	1次活動	2次活動	家事関連	3次活動	休養的自由 時間活動	積極的自由 時間活動	他の3次 活動
単身世帯									
60～64歳	406	149	680	120	100	640	411	105	123
65～69歳	485	172	697	129	121	615	377	115	124
70～74歳	522	160	705	131	124	605	370	112	124
75歳以上	1,103	347	740	127	121	573	392	86	95
夫婦のみの世帯									
60～64歳	1,367	426	676	96	85	668	371	164	133
65～69歳	2,879	837	689	88	79	663	390	165	108
70～74歳	3,512	1,069	697	92	85	650	401	145	102
75歳以上	5,004	1,518	744	81	75	615	420	97	97
同居世帯									
60～64歳	116	28	715	67	58	658	382	173	104
65～69歳	350	77	717	82	65	641	396	125	121
70～74歳	760	157	723	112	92	604	412	101	91
75歳以上	2,771	585	766	67	53	607	450	64	93

資料：総務省「社会生活基本調査」(2006)

表1-2 世帯類型別・年齢階級別にみた総平均時間（女性・無業者）

単位：分

	標本数	推定人口 (千人)	1次活動	2次活動	家事関連	3次活動	休養的自由 時間活動	積極的自由 時間活動	他の3次 活動
単身世帯									
60～64歳	665	217	681	224	221	534	299	113	123
65～69歳	1,189	396	701	228	220	511	313	89	107
70～74歳	1,845	581	701	218	212	522	329	79	113
75歳以上	4,697	1,500	736	181	176	523	358	70	95
夫婦のみの世帯									
60～64歳	3,318	1,025	653	312	307	475	265	102	111
65～69歳	3,985	1,198	671	297	293	472	274	98	102
70～74歳	3,605	1,097	687	294	290	459	290	75	94
75歳以上	3,329	1,036	723	274	270	443	310	55	78
同居世帯									
60～64歳	449	100	692	311	300	437	277	57	104
65～69歳	1,085	233	693	275	262	472	302	81	89
70～74歳	1,852	438	706	233	221	501	334	75	90
75歳以上	6,788	1,760	768	114	107	557	418	44	96

資料：表1-1に同じ。

同様の傾向となっている。紙面の制約上資料は示さないが、同居世帯については1次活動のうち特に睡眠時間が長いようである。

2次活動の配分時間についてみよう。これは世帯類型によってそれぞれやや異なった値と年齢階級変動を示している。単身世帯についてはいずれの年齢階級においても3つの世帯類型のうち最も多く配分されている。60～64歳階級では120分であったものが、65～69歳階級では129分とやや増加する。それ以降の年齢階級においてはあまり変動がみられない。

夫婦のみの世帯は60～64歳階級では96分である。これは同一年齢階級の3つの世帯類型の中で2番目に多い値である。70～74歳階級までは微減・微増がみられ、75歳以上階級では81分となり、60～64歳階級よりも15分ほど減少していることがわかる。

同居世帯の60～64歳階級では67分と、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も少ない。他の世帯類型と異なり年齢階級の上昇に伴って配分時間が増加し、70～74歳階級では112分となる。これは同一年齢階級の夫婦のみの世帯のそれよりも多い値となっている。75

歳以上階級では急激に減少し67分と、再び3つの世帯類型の中で最も少なくなる。なぜこのようになったのかは行動者平均時間、行動者率をみてもみる必要があるだろう。

2次活動の主な項目である家事関連（家事、介護・看護、育児、買い物の合計）に関する配分時間についてもほぼ同様の特徴となっている。資料は割愛するが、家事関連の各項目はいずれも同様に増加しており、ある項目の配分時間が特に増加しているわけではない。

3次活動についてみよう。単身世帯では60～64歳階級で640分であったものが、年齢階級の上昇に伴って減少していき、75歳以上階級では573分となる。70～74歳階級を除いていずれの年齢階級においても世帯類型の中で最も少ない値となっている。

夫婦のみの世帯では60～64歳階級において668分であったものが、年齢階級の上昇に伴い配分時間が減少していく。特に75歳以上階級では615分となり、1つ前の年齢階級からの減少幅（以下減少幅とする。増加幅についても同様）が35分と大きい。しかしいずれの年齢階級においても3つの世帯類型の中で配分時間が

最も多くなっている。

同居世帯では60～64歳階級において658分であったものが、年齢階級の上昇に伴って減少する。特に70～74歳階級での減少幅は37分と大きく、配分時間は604分となる。75歳以上階級では607分とほぼ横ばいとなっている。他の世帯類型では75歳以上階級においてこのような傾向はみられない。

このように単身世帯と夫婦のみの世帯については、3次活動全体の配分時間の水準は異なるものの年齢階級変動については比較的似通ったものであるといえるだろう。同居世帯についても一部の年齢階級においてやや異なった傾向はあるもののそれほど大きな違いがみられるわけではないことがわかる。

より詳しく実態を把握するために3次活動の主な項目についてもみていこう。まず、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、休養・くつろぎの合計である休養的自由時間活動についてみていこう。単身世帯の60～64歳階級では411分と同一年齢階級において3つの世帯類型の中で最も多く配分されている。65歳～69歳階級では377分と減少し、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も少なくなる。これはこれ以降の年齢階級でも同様である。70～74歳階級ではほぼ横ばいとなり、75歳以上階級では増加に転じ392分となる。

夫婦のみの世帯では60～64歳階級において371分となっている。同居世帯とは10分ほどの差しかないものの同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も少ない。年齢階級の上昇に伴って増加していき、75歳以上階級では420分となる。

同居世帯では60～64歳階級では382分となっている。年齢階級の上昇に伴って配分時間が増加し、70～74歳階級では412分となる。この年齢階級までは夫婦のみの世帯と比べて配分時間はやや多いものの、増加幅については似通ったものである。しかし75歳以上階級においては配分時間が450分と大きく増加する。

このように休養的自由時間活動については、単身世帯の配分時間、年齢階級変動ともに他の世帯類型とかなり異なっていることがわかる。また同居世帯の75歳以上階級での急激な配分時間の増加も特徴的であるといえよう。

次に積極的自由時間活動についてみていこう。積極的自由時間活動は学習・研究(学業以外)、趣味・娯楽、スポーツ、ボランティア活動・社会活動の合計である。単身世帯の60～64歳階級においては、配分時間が105分と同一年齢階級における他の世帯類型に比べてかなり少ない。65～69歳階級では115分とやや増加する。70～74歳階級ではほぼ横ばいとなり、75歳以上階級では86分と減少に転じる。この減少幅は他の世帯類型に比べると小さいものとなっている。

夫婦のみの世帯では60～64歳階級では164分となっている。65～69歳階級でも165分とほぼ横ばいで、そ

の後70歳代になって減少し、特に75歳以上階級では97分と1つ前の年齢階級に比べて50分近く減少している。しかし60～64歳階級を除きいずれの年齢階級においても3つの世帯類型では最も多く配分されている。

同居世帯では60～64歳階級では173分と同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も多い配分時間となっているが、夫婦のみの世帯との差は10分程度と大きくない。年齢階級の上昇に伴って配分時間が大きく減少し、70～74歳階級では101分、75歳以上階級では64分と同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最少となる。

このように積極的自由時間活動については、世帯類型によって配分時間、年齢階級変動ともに特徴が異なることがわかった。

なおいずれの世帯類型においても75歳以上階級では3次活動のうち休養的自由時間活動が増加、積極的自由時間活動が減少している。これはやはり後期高齢期になると身体上や健康上の理由が暮らしに強く影響してくるからではないかと推察される。

移動(通勤・通学を除く)、交際・付き合い、受診・診療、その他の合計である他の3次活動については、紙面の制約上割愛する。

(2) 女性について

次に表1-2を用いて女性についてもみていこう。まず1次活動の配分時間である。単身世帯は60～64歳階級で681分だったものが、65～69歳階級で701分となり、20分ほど増加する。70～74歳階級では1つ前の年齢階級と変化がみられない。しかし75歳以上階級では736分と30分も増加する。

夫婦のみの世帯はいずれの年齢階級においても他の世帯類型よりも配分時間が少ない。60～64歳階級では653分であったが、年齢階級の上昇に伴って増加し、75歳以上階級では723分となる。

同居世帯においては60～64歳階級で692分と、単身世帯よりも10分程度多い配分時間となっている。65～69歳階級ではほぼ横ばいで、70歳代になって増加幅が大きくなり、特に75歳以上では768分と1つ前の年齢階級に比べて60分以上増加している。そのため他の世帯類型に比べてかなり多い値となり、2番目の単身世帯との差は30分以上となっている。

いずれの世帯類型においても年齢階級の上昇に伴って配分時間が増加していく傾向は同様であるが、その値の水準や年齢階級変動はそれぞれの世帯類型でやや異なっていることがわかった。

2次活動についてみていこう。単身世帯の60～64歳階級において224分であった配分時間は、70～74歳階級まで10分程度までの小幅な増減をしており、あまり大きな変化はみられない。75歳以上階級では181分となり、その減少幅は40分近い。

夫婦のみの世帯の配分時間は、いずれの年齢階級で

も3つの世帯類型の中で最も多い。60～64歳階級では312分であったものが、65～69歳階級では297分と15分ほど減少する。70～74歳階級では294分と微減にとどまっている。75歳以上の階級では274分となり、減少幅は20分である。

同居世帯の60～64歳階級では311分となっており、夫婦のみの世帯と同様の値を示している。65～69歳階級では275分、70～74歳階級では233分と、年齢階級の上昇に伴って、他の世帯類型に比べて大きく減少している。特に75歳以上階級では114分とさらに大きく減少する。そのためこの年齢階級においては3つの世帯類型の中で最も少ない配分時間となる。

2次活動については単身世帯と夫婦のみの世帯は配分時間の水準は異なっているが、年齢階級変動は75歳以上階級を除くと似通ったものとなっているといえるだろう。同居世帯の年齢階級変動は他の世帯類型とかなり異なったものとなっていることがわかった。

2次活動の主な項目である家事関連についても、2次活動全体と同様の傾向がみられることがわかった。

3次活動についてみていこう。単身世帯の60～64歳階級は534分で、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も多い配分時間となっている。2番目に多い夫婦のみの世帯と約60分もの開きがある。65～69歳階級では511分と減少する。70～74歳階級では522分とやや増加し、75歳以上階級ではほぼ横ばいとなる。

夫婦のみの世帯の60～64歳階級では、475分であった。65～69歳階級ではあまり変動はみられない。70～74歳階級及び75歳以上階級では減少幅は10数分ずつとなっている。

同居世帯では60～64歳階級で437分と同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も少ない。最も多い単身世帯との差は100分近くにもなっている。同居世帯では他の世帯類型とは異なり、年齢階級の上昇に伴って配分時間が増加していき、75歳以上階級では557分と同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も多く配分されるようになる。その値は最も少ない夫婦のみの世帯よりも110分ほど多いものとなっている。

3次活動についてはそれぞれの世帯類型によって配分時間の水準、年齢階級変動ともに特徴があることがわかった。2次活動と同様、特に同居世帯の年齢階級変動が他の世帯類型とはかなり異なったものとなっているといえるだろう。

より詳しくみるために、3次活動のうち休養的自由時間活動についてとりあげよう。単身世帯では60～64歳階級で299分配分されている。この値は同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も多い。65～69歳階級では313分、70～74歳階級では329分と年齢階級の上昇に伴う増加幅は15分前後となっている。75歳以上階級では358分となり、増加幅は28分とやや大きくなっている。

夫婦のみの世帯では60～64歳階級では265分で、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も少ない配分時間となっている。最も多い単身世帯との差は34分である。65～69歳階級では274分、70～74歳階級では290分となっており、年齢階級の上昇に伴う増加幅はそれぞれ9分、16分と徐々に広がっている。75歳以上階級では310分と、増加幅は20分となるものの、他の年齢階級と同様に3つの世帯類型の中で最も少ない配分時間となっている。

同居世帯では60～64歳階級では277分の配分時間である。65～69歳階級では302分、70～74歳階級では334分と、増加幅はいずれも30分前後で、同一年齢階級において他の世帯類型よりも多いことがわかる。75歳以上階級ではさらに84分も増加して、418分となる。この値は同一年齢階級で最も少ない夫婦のみの世帯よりも、100分以上多いものとなっている。

これより休養的自由時間活動についてはいずれの世帯類型においても年齢階級の上昇に伴って配分時間が増加していくが、単身世帯と夫婦のみの世帯は値の水準は異なるものの、ほぼ同様の年齢階級変動であるといえる。同居世帯は低い年齢階級においては他の世帯類型と配分時間に違いはみられないが、増加幅が大きく、特に高い年齢階級での急激な増加が特徴的であることがわかった。

積極的自由時間活動の配分時間についてみていこう。

単身世帯では60～64歳階級で113分であったものが、65～69歳階級では89分と24分減少する。70～74歳階級及び75歳以上階級では減少幅が約10分に縮小し、75歳以上階級の配分時間は70分となる。この値は同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も多い。単身世帯では60歳代前半において減少幅が大きいことがわかる。

夫婦のみの世帯では60～64歳階級で102分と、同一年齢階級では単身世帯に次いで多く配分されている。65～69歳階級の配分時間は98分で、ほとんど減少していない。70歳代では20数分程度ずつ減少し、75歳以上階級では55分となる。夫婦のみの世帯も単身世帯同様、年齢階級の上昇に伴って配分時間が減少していくが、その減少幅は70歳代において大きくなっており、やや異なった傾向となっている。

同居世帯では60～64歳階級で57分の配分時間となっている。この値は同一年齢階級における他の世帯類型に比べてかなり少なく、最も多い単身世帯との差は56分もある。65～69歳階級では81分へと配分時間が増加しており、他の世帯類型と異なる動きとなっている。70～74歳階級では小幅ながら減少に転じ75分となり、さらに75歳以上階級では44分と、1つ前の年齢階級よりも31分も減少している。それゆえ75歳以上階級では3つの世帯類型の中で再び最も少ない配分時間となる。このように同居世帯の年齢階級変動は他の世帯類型と

表2-1 世帯類型別・年齢階級別にみた行動者平均時間（男性・無業者）

単位：分

	1次活動	2次活動	家事	育児	3次活動	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	趣味・娯楽	スポーツ
単身世帯									
60～64歳	680	149	107	112	641	355	157	208	143
65～69歳	697	154	123	85	617	315	149	197	130
70～74歳	705	162	122	103	608	304	144	173	90
75歳以上	740	169	138	74	577	317	154	169	115
夫婦のみの世帯									
60～64歳	676	151	131	141	669	302	145	200	134
65～69歳	689	150	124	139	664	301	143	186	131
70～74歳	697	158	137	116	651	316	140	192	114
75歳以上	744	154	131	104	618	319	170	169	98
同居世帯									
60～64歳	715	129	114	104	658	300	164	244	83
65～69歳	717	160	134	225	643	299	190	202	129
70～74歳	723	208	168	159	608	329	167	192	106
75歳以上	766	170	163	103	612	330	201	178	109

資料：表1-1に同じ。

表2-2 世帯類型別・年齢階級別にみた行動者平均時間（女性・無業者）

単位：分

	1次活動	2次活動	家事	育児	3次活動	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	趣味・娯楽	スポーツ
単身世帯									
60～64歳	681	231	176	120	535	240	122	146	94
65～69歳	701	243	185	125	524	245	132	168	75
70～74歳	701	233	182	146	525	257	131	162	79
75歳以上	736	211	177	98	524	261	176	162	72
夫婦のみの世帯									
60～64歳	653	322	251	162	477	212	107	156	91
65～69歳	671	309	251	183	476	220	108	157	92
70～74歳	687	311	258	163	463	224	125	158	88
75歳以上	723	298	249	70	444	230	149	146	84
同居世帯									
60～64歳	692	335	244	186	440	222	131	149	66
65～69歳	693	306	240	212	475	229	150	167	89
70～74歳	706	265	228	119	503	245	154	184	86
75歳以上	768	194	173	117	562	293	229	163	94

資料：表1-1に同じ。

かなり異なっていることがわかる。

他の3次活動については紙面の制約上割愛する。

女性の総平均時間についてみてきたが、多くの項目において同居世帯の年齢階級変動が他の世帯類型とかなり異なっていることが明らかになった。このような傾向は男性においてはあまり顕著ではない。

3. 行動者平均時間及び行動者率について

(1) 男性について

より詳しく分析するために行動者平均時間及び行動者率についてみていこう。行動者平均時間はそれぞれの行動者数を分母としているため、各項目について単純に足し合わせるができない点に留意が必要である。1次活動については当然であるがほぼ100%の行動者率であることから、この節では改めて取り上げる必要はないといえよう。本稿では2次、3次活動の内訳の中で総平均時間が多い主な項目を取り上げる。

表2-1及び表3-1を用いて男性の行動者平均時間及び

行動者率についてみていこう。まず2次活動の主な項目についてである。本稿は無業者を対象にしているため家事についてのみ取り上げる。単身世帯の行動者平均時間は60～64歳階級で107分となっており、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で配分時間が多いわけではない。むしろ同居世帯とあまり変わらないものの最も少ないことがわかる。65～69歳階級では123分と増加し、70～74歳階級でもほぼ同様の値となっている。75歳以上階級では138分と再び増加している。

これに対して単身世帯の行動者率は60～64歳階級で60.8%と同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も高く、最も低い同居世帯を40%ポイント近く上回っている。70～74歳階級において70%を超え、75歳以上階級では63.1%と低下に転じる。

このことより項目が完全に一致しているわけではないが、単身世帯の家事関連の総平均時間がいずれの年齢階級においても3つの世帯類型の中で最も高い値を示しているのは、行動者平均時間が多いだけでなく、行動者率が高いことがより影響しているといえよう。

表3-1 世帯類型別・年齢階級別にみた行動者率（男性・無業者）

単位：％

	1次活動	2次活動	家事	育児	3次活動	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	趣味・娯楽	スポーツ
単身世帯									
60～64歳	100.0	82.5	60.8	3.8	99.8	94.5	47.3	31.5	29.4
65～69歳	100.0	82.4	61.2	1.7	99.6	92.1	55.6	35.5	24.2
70～74歳	100.0	81.1	70.1	2.6	99.5	92.3	63.6	38.5	27.2
75歳以上	100.0	74.2	63.1	1.3	99.4	92.1	65.0	30.8	18.7
夫婦のみの世帯									
60～64歳	100.0	63.5	36.2	3.4	99.9	89.9	68.4	49.3	32.9
65～69歳	100.0	59.2	38.1	2.0	99.8	95.3	72.1	48.2	34.0
70～74歳	100.0	58.4	37.2	1.7	100.0	96.1	70.4	44.3	32.3
75歳以上	100.0	52.6	36.7	0.5	99.5	92.5	73.6	34.6	23.6
同居世帯									
60～64歳	100.0	50.6	21.5	12.7	100.0	93.7	64.0	51.3	19.5
65～69歳	100.0	50.6	27.8	4.9	99.7	89.5	68.0	40.3	22.4
70～74歳	100.0	53.3	32.7	5.7	99.4	91.7	65.8	32.8	21.1
75歳以上	100.0	39.4	22.4	1.0	99.4	90.8	74.7	25.6	11.7

資料：表1-1に同じ。

表3-2 世帯類型別・年齢階級別にみた行動者率（女性・無業者）

単位：％

	1次活動	2次活動	家事	育児	3次活動	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	休養・くつろぎ	趣味・娯楽	スポーツ
単身世帯									
60～64歳	100.0	97.0	92.2	2.3	99.9	90.0	67.5	46.0	20.2
65～69歳	100.0	94.0	90.5	1.4	97.5	91.4	68.6	37.5	20.6
70～74歳	100.0	93.6	89.9	1.6	99.4	93.2	69.2	29.4	20.9
75歳以上	100.0	85.6	80.9	1.0	99.8	88.0	72.7	27.4	11.1
夫婦のみの世帯									
60～64歳	100.0	96.7	94.2	7.1	99.5	91.6	65.0	39.7	25.8
65～69歳	100.0	96.2	92.5	3.1	99.2	91.9	66.9	37.6	22.5
70～74歳	100.0	94.5	91.9	1.8	98.9	92.6	65.4	31.5	17.1
75歳以上	100.0	92.0	89.4	0.9	99.8	91.1	67.8	24.8	11.0
同居世帯									
60～64歳	100.0	92.8	89.1	20.0	99.3	87.9	63.4	26.8	15.8
65～69歳	100.0	90.1	85.4	10.4	99.2	86.2	69.4	33.3	13.9
70～74歳	100.0	88.0	79.6	5.5	99.7	90.1	74.5	32.7	9.5
75歳以上	100.0	56.7	48.5	1.1	99.2	84.1	75.1	19.1	7.2

資料：表1-1に同じ。

夫婦のみの世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では131分となっており、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で行動者の配分時間が最も多いものの、最も少ない単身世帯との差は24分とそれほど大きいものではない。それ以降の年齢階級においても多少の変動はあるが大きな増減はみられない。夫婦のみの世帯については行動者率でもいずれの年齢階級においても大きな変動はなく、36～38％台となっている。

夫婦のみの世帯の家事関連の総平均時間の年齢階級変動が全体で10分程度とあまり大きくないのは、家事の行動者平均時間、行動者率ともに、年齢階級変動が大きくないことが影響していると思われる。

同居世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では114分である。年齢階級の上昇に伴って増加していき、70～74歳階級では168分となる。75歳以上階級ではやや減少するものの、65～69歳階級以降の年齢階級では同一年齢階級の他の世帯類型に比べて多くなっており、その差は年齢階級の上昇に伴って拡大する傾向にある。同居世帯の年齢階級変動は他の世帯類型とは異

なるものであるといえよう。同居世帯の行動者率は60～64歳階級では21.5％となっている。年齢階級の上昇に伴って少しずつ上昇していき、70～74歳階級では32.7％となる。75歳以上階級では低下に転じ、22.4％となる。いずれの年齢階級においても3つの世帯類型の中で最も低い値となっている。

同居世帯の特に70歳代以降において家事を行っている男性は、予想に反してかなり多くの時間を配分していること、一方行動している人の率は他の世帯類型に比べて低いという特徴があることがわかった。

前節でみたように同居世帯の家事関連の総平均時間は、全体的にみれば高くはないものの70～74歳階級において増加している。これには同居世帯の家事の行動者平均時間が予想に反していずれの年齢階級でも多くかつ70歳代前半まで年齢階級の上昇に伴って増加傾向にあること、さらに行動者率も他の世帯類型よりは低いものの、当該年齢階級において上昇することなどが関連していると思われる。

3次活動はどうなっているのだろうか。休養的自由

時間活動の主な項目であるテレビ・ラジオ・新聞・雑誌についてみていこう。単身世帯の60～64歳階級では355分と他の世帯類型に比べて非常に多いが、その後急激に減少し65～69歳では315分となる。65～69歳階級以降ではそれほど大きな変化はみられない。

夫婦のみの世帯の行動者平均時間は60～64歳階級、65～69歳階級ではいずれも約300分となっている。70～74歳階級及び75歳以上階級ではやや増加し、それぞれ316分、319分となる。

同居世帯の行動者平均時間は、60～64歳階級、65～69歳階級では約300分と、夫婦のみの世帯と同様の値となっているが、70～74歳階級、75歳以上階級では330分前後とやや多くなる。

このように単身世帯の行動者平均時間は他の世帯類型とは異なった年齢階級変動をしていることがわかる。

テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の行動者率についてはいずれの世帯類型、年齢階級においてもほぼ90%を超える高い値となっているが、60～64歳階級を除き夫婦のみの世帯が他の類型よりもやや高い値を示している。

休養的自由時間活動において次に総平均時間が長い休養・くつろぎについてもみていこう。

単身世帯の行動者平均時間は60～64歳階級で157分であったものが、70～74歳階級まで数分ずつ減少しているが、75歳以上階級で再び154分まで増加しており、全体としては大きな変動はみられないといえるだろう。

単身世帯の行動者率は60～64歳階級において47.3%で、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も低い値となっている。年齢階級の上昇に伴って上昇し、75歳以上階級では65.0%となる。

夫婦のみの世帯の行動者平均時間は60～64歳階級において145分と、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も少ない値となっている。70～74歳階級まではいずれも140分台の値となっておりほとんど変動はみられないが、75歳以上階級では170分と30分ほど増加する。夫婦のみの世帯の行動者率は60～64歳階級で68.4%となっている。年齢階級の上昇に伴う変動はあまり大きくなく、75歳以上階級では73.6%である。

同居世帯の行動者平均時間は、いずれの年齢階級においても同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も多くなっている。60～64歳階級においては164分で、夫婦のみの世帯よりも約20分多い。64～69歳階級では190分、70～74歳階級では167分と大きく増減しながら、75歳以上階級では201分となる。同居世帯の行動者率は60～64歳階級で64.0%である。65～69歳階級、70～74歳階級では小幅な変動を繰り返し、75歳以上階級では74.7%とやや上昇する。

休養・くつろぎの行動者平均時間については、同居世帯が他の世帯類型とやや異なった年齢階級変動をしていることがわかった。また単身世帯の行動者率は年

齢階級の上昇に伴い上昇していくが、他の世帯類型ではあまり変動がないかやや上昇していることが明らかになった。

これらの結果を考慮すると、単身世帯の休養的自由時間活動の総平均時間が他の世帯類型とかなり異なった年齢階級変動をする背景には、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌の行動者平均時間や休養・くつろぎの行動者率における単身世帯の特徴的な年齢階級変動があるのではないかと推察される。

次に積極的自由時間活動の主な項目である趣味・娯楽についてみていこう。単身世帯では行動者平均時間が60～64歳階級で208分であったものが、年齢階級の上昇に伴い減少し75歳以上階級では169分となる。単身世帯の行動者率は60～64歳階級において31.5%であったものが、65～69歳階級では35.5%、70～74歳階級では38.5%とやや上昇している。75歳以上階級では30.8%と低下に転じる。

夫婦のみの世帯の行動者平均時間は60～64歳階級で200分であったものが、増減を繰り返しながら75歳以上階級では169分と、対象年齢階級全体としては30分ほど減少する。夫婦のみの世帯の行動者率は60～64歳階級では49.3%と半数近くの人が趣味や娯楽を行っている。60歳代では大きな変動はないが、70歳代になって低下し、75歳以上階級では34.6%となる。

同居世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では244分と、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も多い値となっている。最も少ない夫婦のみの世帯との差は44分である。年齢階級の上昇に伴って減少し、75歳以上階級では178分となる。これは同一年齢の他の世帯類型より10分ほど多い。同居世帯の行動者率は60～64歳階級では51.3%と半数を超え、夫婦のみの世帯と同水準の値となっている。年齢階級の上昇に伴って一貫して低下していき、75歳以上階級では25.6%と大きく低下する。また70～74歳以降の年齢階級では同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も低い値となっている。

これらのことから、同居世帯の積極的自由時間活動の総平均時間の年齢階級変動が、他の世帯類型に比べて大きいのは、同居世帯の趣味・娯楽の行動者率が年齢階級の上昇に伴って他の世帯類型と比べて大きく低下していくことや、行動者平均時間についても他の世帯類型よりも大きな減少がみられることと関連していると考えられる。

(2) 女性について

表2-2及び表3-2を用いて女性についてみていこう。まず2次活動の家事についてみていこう。

単身世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では176分で、年齢階級の上昇に伴う変動はあまりみられず、75歳以上階級では177分となっている。75歳以上階級で同居世帯と同水準の値となるものの、それ以下の年

年齢階級においては同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も低い。単身世帯の行動者率は60～64歳階級で92.2%と、ほとんどの人が家事を行っていることを示している。70～74歳階級までは大きな変動はないが、75歳以上階級になって80.9%と低下する。

以上より単身世帯の家事関連の総平均時間が75歳以上階級でやや大きく減少するのは、家事の行動者平均時間の年齢階級変動はみられないものの、行動者率が低下することが影響していると考えられる。

夫婦のみの世帯では、60～64歳階級では251分となっている。この値は単身世帯の同一年齢階級より75分も多い。夫婦のみの世帯についても年齢階級の上昇に伴う変動はあまりみられず、75歳以上階級でも249分となっている。夫婦のみの世帯の行動者率は60～64歳階級で94.2%と大変高い率を示している。年齢階級の上昇に伴う変動はあまりみられず、75歳以上階級においても89.4%となっており、単身世帯のように低下しないことがわかる。

同居世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では244分となっている。これは夫婦のみの世帯に近い水準である。年齢階級の上昇に伴い減少し、70～74歳階級では228分となる。75歳以上階級では173分とさらに大きく減少する。これは同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も少ない単身世帯と同様の水準である。同居世帯の行動者平均時間は、3つの世帯類型の中で最も年齢階級に伴う減少幅が大きいことがわかる。同居世帯の行動者率は60～64歳階級で89.1%となっている。この値は数%ポイントの差しかないが、3つの世帯類型の中で最も低い。年齢階級の上昇に伴い低下し、70～74歳階級では79.6%となる。75歳以上階級では48.5%とさらに大きく低下している。この低下は他の世帯類型のそれよりもかなり急激なものとなっている。

同居世帯の家事関連の総平均時間は、他の世帯類型よりも年齢階級の上昇に伴う減少幅が大きく、特に75歳以上階級で大きく減少していることは前述のとおりである。これはこの世帯類型における家事の行動者平均時間、行動者率ともに年齢階級の上昇に伴い大きく減少、低下し、特に75歳以上階級でその傾向が著しいことと関連していると思われる。

このように家事についてはそれぞれの世帯類型で異なった特徴がみられることがわかった。夫婦のみの世帯は行動者平均時間、行動者率ともに年齢階級変動はあまりみられない。単身世帯では70～74歳階級までは夫婦のみの世帯と同様、行動者平均時間、行動者率ともにあまり変動がみられないが、75歳以上階級では行動者率のみ低下する。これに対し同居世帯では行動者平均時間、行動者率ともに、年齢階級の上昇に伴って、低下し、特に75歳以上階級でその傾向が著しい。

夫婦のみの世帯の男性は家事の行動者率が36～38%と高いことからも分かるように、多くの世帯で女

性が主にこれを担っている。同居世帯のように代わりに担ってくれる他の世帯員もおらず、また自分のだけではなく、夫の食事や洗濯等の世話もしなければならぬため、単身世帯のように高齢になったからといって家事を行わないという選択もできないのであろう。また年齢階級別、世帯類型別の推定人口の値から、それまで単身や夫婦のみで暮らしてきた高齢者が、身体上健康上等の理由のために高い年齢階級になってから子夫婦家族と同居するケースも少なくないと推察され、特徴がより明確に表れているとも考えられるだろう。

次に3次活動についてみていこう。休養的自由時間活動の主な項目である、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌についてみよう。単身世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では240分で、年齢階級の上昇に伴って少しずつ増加し、75歳以上階級においては261分となる。

単身世帯の行動者率は60～64歳階級で90.0%と高い値を示している。それ以降の年齢階級においても多少の変動はあるものの、同様の高い率を示している。

夫婦のみの世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では212分と、同一年齢階級で最も多い単身世帯と比べて30分ほど少ない値となっている。単身世帯と同様に年齢階級の上昇に伴って少しずつ増加し、75歳以上階級においては230分と、やはり同一年齢階級の単身世帯との差は約30分となっている。夫婦のみの世帯の行動者率についてもいずれの年齢階級でも90%を超える高い率となっている。

同居世帯の行動者平均時間は、60～64歳階級では222分で、夫婦のみの世帯より10分ほど多い値となっている。その後年齢階級の上昇に伴って増加幅が大きくなっていく。75歳以上階級においては293分と、同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も多くなり、夫婦世帯との差は60分以上となる。このように同居世帯については他の世帯類型とは少し異なった年齢階級変動をしていることがわかる。同居世帯の行動者率は60～64歳階級で87.9%となっている。これ以降の年齢階級において多少の変動がみられる程度である。ただしいずれの年齢階級においても他の世帯類型よりも少し低い値となっている。

休養的自由時間活動のもうひとつの主な項目である休養・くつろぎについてみていこう。単身世帯の行動者平均時間は60～64歳階級で122分であったものが、65～69歳階級では132分となる。70～74歳階級ではほぼ横ばい、75歳以上階級では176分と大きく増加する。単身世帯の行動者率は60～64歳階級では67.5%となっており、70～74歳階級まであまり変動していない。75歳以上階級では72.7%とやや上昇する。

夫婦のみの世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では107分、65～69歳階級でも同様の値であるが、70～74歳階級では125分と増加する。75歳以上では149分

とさらに増加するものの、増加幅は単身世帯ほどではない。夫婦のみの世帯の行動者率は60～64歳階級では65.0%となっている。これ以降の年齢階級でも大きな変動はみられず、ほぼ同様の値となっている。

同居世帯の行動者平均時間は60～64歳階級で131分であったものが、65～69歳階級では150分と増加する。70～74歳階級ではあまり変動がみられないが、75歳以上階級で非常に大きく上昇し229分となる。いずれの年齢階級においても3つの世帯類型の中で最も多い値であるが、75歳以上階級における増加幅が他の世帯類型よりも大きく、差が広がる結果となっている。同居世帯の行動者率は60～64歳階級では63.4%であった。年齢階級の上昇に伴って上昇し、75歳以上階級では75.1%となる。他の2つの世帯類型に比べて対象年齢階級全体における上昇幅が大きいことがわかる。

前節で述べたように同居世帯の休養的自由時間の総平均時間は、他の世帯類型と異なり75歳以上階級で大きく増加する特徴が認められる。同居世帯のテレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎの行動者平均時間がこの年齢階級において大きく増加すること、さらにテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の行動者率があまり大きく変化しないなか、休養・くつろぎの行動者率の年齢階級に伴う上昇の幅が他の世帯類型に比べて大きいことなども影響を与えていると思われる。

積極的自由時間活動の主な項目である趣味、娯楽についてみていこう。単身世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では146分で、65～69歳階級では168分と増加する。それ以降の年齢階級ではほぼ横ばい状態となる。単身世帯の行動者率は60～64歳階級では46.0%となっている。この値は同一年齢階級の3つの世帯類型の中で最も高い。年齢階級の上昇に伴って一貫して低下し、70～74歳階級では29.4%となる。75歳以上階級では27.4%となり、低下幅がやや縮小される。

夫婦のみの世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では156分となっている。70～74歳階級まではほぼ横ばいで、75歳以上では146分とやや減少する。

夫婦のみの世帯の行動者率は60～64歳階級で39.7%となっている。年齢階級の上昇に伴い低下していき、75歳以上では24.8%となる。

同居世帯の行動者平均時間は60～64歳階級では149分となっている。年齢階級の上昇に伴って増加し、70～74歳階級では184分となる。75歳以上階級では163分と減少に転じ、65～69歳階級と同様の値となる。

同居世帯の行動者率は他の世帯類型とはやや異なった動きをしている。60～64歳階級では26.8%となっており、同一年齢階級の他の世帯類型に比べて低い値となっている。65～69歳階級では33.3%と上昇し、70～74歳階級ではほぼ横ばいで、75歳以上では19.1%と大きく低下する。そのため75歳以上階級では同一年齢階級の3つの世帯類型の中で再び最も低い値となる。

これらのことから単身世帯及び夫婦のみの世帯の積極的自由時間活動の総平均時間の年齢階級の上昇に伴う減少は、趣味・娯楽の行動者平均時間は減少していない年齢階級も多いことから、行動者率の低下による部分がより強く影響していると思われる。同居世帯の総平均時間が一旦上昇したのち低下に転じるといった特徴ある年齢階級変動となっているのは、趣味・娯楽の行動者平均時間及び行動者率の年齢階級変動と関連していると思われる。

男性については趣味・娯楽の行動者平均時間はいずれの世帯類型でも減少傾向にあり、行動者率も単身世帯以外は低下している。それゆえ男性の積極的自由時間活動の総平均時間の減少は女性よりも大きくなっているであろう。

4. おわりに

以上、従来の性別、年齢階級別に加え世帯類型に着目して高齢者の生活時間の実態についてみてきた。男性ではそれぞれの世帯類型で、各活動への配分時間の特徴がやや異なることが多かったのに対し、女性では同居世帯が特徴的であることが多かった。家事関連においてこの傾向は顕著であった。このことは家事の担い手の代わりや世話をしなければならない他の世帯員の有無、さらに後期高齢期の身体や健康上の理由などのほか75歳以上階級の平均年齢の違い等も関係しているのではないかと推察される。またこの家事関連への配分時間の違いや、身体や健康上の理由が、3次活動の各活動の配分時間に影響を与えているのではないかと推察されるだろう。

このように世帯類型という属性別にみることで、高齢者全体の平均像とはそれぞれかなり異なる特徴をもっていることがわかった。今後は男女の比較や、これまでの実態把握をもとに計量的な手法を用いた分析などを行っていく予定である。

文献

- 小林和美 (2010) 「韓国の高齢者の生活時間 - 生活時間調査データの日韓比較から - 」 『大阪教育大学紀要』 Vol. 58, No. 2, pp. 1-15
- 熊澤幸子 (2003) 「独居後期高齢者に対する生活時間調査: NHK 全国調査60歳台と70歳台以上における生活時間の比較」 『社会福祉学』 Vol. 44, pp. 149-159
- 三富紀敬 (2006) 「高齢者の生活時間」 『静岡大学経済研究センター - 研究叢書』 Vol. 4, pp. 47-53
- 関根美貴 (2011) 「就業状態別にみた高齢者の生活時間の実態 (1) - 男性について - 」 『愛知教育大学家政教育講座研究紀要』 Vol. 44, pp. 55-67
- 関根美貴 (2012) 「就業状態別にみた高齢者の生活時間の実態 (2) - 女性について - 」 『愛知教育大学研究報告』 Vol. 61, pp. 43-51

(2012年9月18日受理)